

街道を歩く

東海道: 05 大谷-石薬師-庄野-西富田 (和泉橋)

加佐登神社 (祭神日本武尊他)
日本武尊が死の間際持っていた笠と杖をご神体として祭る。
明治以前は御笠殿社として諸病平癒に靈験があると信仰を集めていた。
4月8日は尊の命日とされ大祭が行われる。



白鳥塚古墳
直径70m高さ13m県下最大の円墳、ひよどり塚とも云われる。葺き石も残っている。
日本武尊が大和に向う途中、能褒野で亡くなり、ここに墓を営んだが大和を偲ぶあまり白鳥となり飛び立った伝説がある。
ここは本居宣長、平田篤胤らによって延喜の諸陵式の能褒野墓とされていた。かんはたのみや近くに景行天皇が訪れたとされる綺宮跡がある。



荒神山観音寺
弘仁3年(812)空海の創建で神事山と称した後高神山(荒神山)と改める。
一時廃寺となる。江戸初期順海入山再興この地は幕府領、神戸、亀山領の境で取り締まり行き届かず寺の縁日には渡世人があつまり争いが多かった。慶応2年(1866)桑名の穴濃徳と神戸の長吉の縄張り争いは有名。長吉方の吉良の仁吉はここで銃弾に倒れる。28歳順海の異母姉春日局の寄進した梵鐘がある。



庄野宿 (石薬師から25町)
宿立ては遅く寛永元年(1624)、宿は草分け36戸、宿立て70戸いわれ小さな宿であった。名物焼米俵街並8町、東より加茂町、中町、上町なる。本陣、脇本陣、問屋各1、旅籠15
石薬師-庄野間は御油-赤坂について短い宿間。

石薬師寺
神亀年間(724-29)泰澄の開基と云われる。天正年間(1573-92)に信長の兵火で焼失円賢が仮堂宇を造営、慶長年間(1596-1615)に神戸城主一柳直盛が娘の眼病祈願の報恩に諸堂宇を建立し寺観を整える。本尊は高さ2.25mの石に像高1.9mの薬師如来像の石仏、空海の作といわれる。



川俣神社
このあたり鈴鹿川が股のように分かれて流れていたことの由来とかこの沿いに川俣神社6ヶ所あるという街道筋に3ヶ所。



石薬師宿 (四日市宿から2里27町)
四日市宿と亀山宿の間が長かったので元和元年(1616)設けられる。元は鈴鹿川の近くにあったが水害を避けて現在地へ休憩地として利用され宿泊客が少なく宿経営は苦しかった。文化12年人足、伝馬50疋に半減。本陣3、脇本陣0、問屋1、旅籠15、天保14年(1843)街並南北9町42間。



小沢本陣跡
古くから残る宿帳によると元禄10年(1697)7月18日浅野内匠頭他家臣"御休"の記録大岡越前守が伊勢山田奉行の頃泊った。記録残る。明治になった建て替えられる。国学者萱生由章はこの家の出

蒲神社 (御曹子神社)
いけずき源範頼が京に向う途中名馬の生食の出所こちらだというので立寄る(2番目は磨墨)範頼を祭る神社。学問、武芸願望成就の神様境内に神馬と厩舎が寄進がされている。



蒲桜 (県天然記念物)
蒲冠者で知られる源範頼は京に向う途中石薬師寺に戦勝祈願、そのとき鞭にしていた桜の枝を地に挿し"戦いに勝てばきと生よ"といって出発したという。逆桜とも云われる。

女人堤防石碑
かつてここは鈴鹿川と安楽川の合流地点川が度々氾濫するにもかかわらず神戸藩は堤防を造らせなかったため住民は困っていた。ある時菊という女が先頭に立ち女性だけで6年かかって堤防を完成させた。禁を犯した罪で女性達は捕らえられたが家老が死を持って藩主を諫め、女性達は処刑を免れたという。



このあたり江戸から百里"東百里屋"ともりやの屋号の家、今も残るという